

1. 事業名：当院における包括的口腔ケアシステムの評価

2. 申請者名：トヨタ記念病院 歯科口腔外科 牧野真也

3. 実施組織：トヨタ記念病院 豊田加茂歯科医師会

4. 事業の概要：近年、NST（Nutritional Support Team）の活動により入院患者に対する口腔環境の改善意識は高まっているが、人的、経済的問題点も多く、包括的かつ効率的な口腔管理がすべての病院で実施されていない。そこで本事業では、口腔管理に対する当院でのこれまでの試みを、以下の重点項目において多角的に評価することを目的とした。

- 1) 口腔ケア実施による医学的評価
- 2) 院内職員を対象とした口腔ケアに関する意識調査
- 3) その上で当院での試みを歯科医師会等で報告し口腔ケアの重要性を広め、入院前後の口腔ケア強化に繋げる。

5. 事業の内容

1) 当院では、平成 21 年より入院患者に対する口腔ケアを包括的に実施している。平成 21 年 1 月から平成 22 年 3 月までに口腔ケアを実施した 842 名の記録内容を検討したところ、口腔内の乾燥、汚染所見は、口唇・口蓋・舌に偏在していた。また、残存歯の有無を検討したところ残存歯がある群が、口腔汚染が進んでいる傾向を示した。さらに口腔ケアと全身状態（熱発、入院日数など）の比較検討を試みるも、口腔ケアを実施した対象患者の基礎疾患が、呼吸器疾患、消化器疾患、神経・筋疾患など多岐にわたり、有用な結果を得ることが出来なかった。そこで医学的背景を極力統一するため、入所者の疾患が主に脳血管系疾患や神経・筋疾患に限定されている老人保健施設ジョイステイ入所者を対象者とした。本年度は、準備委員会（当院歯科口腔外科、感染症科）を組織し、当院倫理委員会の審査を経て、歯科衛生士による専門的口腔管理を開始、口腔内細菌検査、口腔内緩衝能検査、歯周ポケット検査なども実施して、次年度以降に評価検討を行う予定である。

2) 平成 24 年 1 月 25 日、他施設より講師を招聘して口腔ケア講演会「急性期病院における口腔ケア」を開催し、参加した院内職員に、講演会直後と 1 ヶ月後に下記アンケートを実施した。

①口腔ケアの認知度

病棟看護師は毎日口腔ケアを実施しており、その 6 割以上は患者や家族に対して口腔ケアの指導・教育も行っていた。講演会 1 ヶ月後には指導・教育の実施率が増加していた。また、病棟看護師からは歯科衛生士と 100%連携が取れているとの回答があった。

②口腔領域の解剖学的熟知度

口腔ケアを行っている看護師の 9 割以上が口腔領域の解剖に不安を抱えながらケアを実施している実態が明らかになった。講演内容に口腔領域の名称、歯式の見方などの解説も含まれていたが、1 ヶ月後の調査でもその理解度はほとんど変わらなかった。

③実際の手技

ケアの実施時間にばらつきがみられたが、講演会 1 ヶ月後には平均 2 分増加していた。手技の自己評価は 6 点 / 10 点満点と高かった。ケアに対する疲労感はほぼ全員が感じており、半数以上の看護師が 10 段階のうち 5 以上の疲労感を示していた。ケアに要する人員数の平均は、1.5 人から 1 ヶ月後の調査では 1.6 人に増加していた。

3) 包括的口腔ケアシステムの中で、アセスメント表は重要なツールと考えられるが、標準的なものではなく、各施設が独自の方法で実施しているのが現状である。当科では、平成 24 年 2 月 4 日に第 27 回日本環境感染学会にて「口腔ケア回診テンプレートの作成と改良」と題して、当院で使用しているアセスメント表の作成過程や改良の概要を報告した。

6. 実施後の評価（今後の課題）

1) 現在口腔ケア対象者を増やしながらかケアを継続しているが、今後は蓄積される検査結果を評価検討するだけでなく、施設内での口腔ケアの共通理解を深めていきたい。

2) 口腔ケアに関する意識調査により、当院の口腔ケアの現状を把握することができた。また職員対象の口腔ケア講演会は、口腔ケアの充実につながったと考える。

3) 学会報告することで当院の口腔ケアアセスメント表の問題点、課題を見直す事ができたが、さらに改良を加えて科学的根拠に基づいたアセスメント法の導入へとつなげていきたい。